

# 2022 年度事業報告書

理事長：太刀川英輔

公益社団法人 日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）は、2022 年 10 月をもって創立 70 周年を迎えました。その節目の年となったこの 1 年間は、70 周年を記念する各種事業を企画・推進し、例年より活発な活動ができた年となりました。JIDA が行なう公益 6 事業、①資格付与事業、②セミナー事業、③体験活動事業、④ミュージアム事業、⑤調査・研究及びその普及事業、⑥内外関係機関との交流及び協力を行う事業、それぞれの事業の中で 70 年の歴史を再認識し、その足跡を振り返る年とすることができました。特にセミナー事業では「70 周年記念リレーセミナー」と称し、企業内デザイナーが製品開発の中での実体験を通してデザインを語る 3 回連続セミナーを開催するなど、多数の一般聴取者に大きな発信をすることができました。関係機関との交流・協力では、日本デザイン団体協議会（D8）の幹事団体として加盟団体を牽引し、経済産業省や日本デザイン振興会なども巻き込んだデザインイベントの開催、または他団体の事業に協力するなどの活動が行なわれました。また、コロナによる DX 化の流れを上手く捉え、IT 系各種サービスを活用した発信力の強化や、公式サイト刷新による広報の充実化を図りました。これにより、インダストリアルデザインの普及啓発がより一層幅広く、充実した内容でお届けできるようになったことは大きな成果です。

## 1、資格付与事業 《国民から信頼される職能の確立》

インダストリアルデザインの普及・啓発を目的に、商品開発に関わる人やスマートな暮らしをしたい人に向けた関連知識の評価となるプロダクトデザイン検定（PD 検定）事業と関連出版事業、この二つの事業の相乗効果を基本に運営している。本年度は出版事業の品質改善に努めたため、広報や普及活動を計画どおりに実施できず受験者数は減少したが、2 級公式テキストの増刷前倒し実施で当初予算計画はほぼ達成できた。

### （1）PD 検定事業

本事業は受験料、資格認定登録費用を財源としており、事業成長の鍵は受験者数にある。その受験者数は計画に対して約 20%減、事業収益は計画に対して約 10%減であった。この要因のひとつは専門学校生の減少から団体受験者が減ったことである。一方、社会人合格者のうち資格認定登録数が約 1.8 倍となり、本検定の狙いとした「デザイン関連知識の理解度評価」が業務上の「推奨資格」として認められつつあることを想定できる。また、さらに認知度を上げるために新しいブランディング施策（検定名称の変更）の検討を行った。

### （2）関連出版事業

本事業は PD 検定 1 級の公式テキスト（赤本）と 2 級の公式テキスト（緑本）、および 1 級問題集、2 級問題集の販売に関わる収入を財源としており、本年度は計画に対して約 1.8 倍となった。この増収要因は 2 級公式テキストの増刷であり、1 級問題集について誤植や理解しにくい表現などに対する購入者からの指摘を受け、修正版準備のために販売を一時停止した影響をカバーした。また、当初計画していた「プロダクトデザインの基礎」（緑本）の改訂版検討には着手ができず、次年度以降に繰り越すこととなった。

## 2、セミナー事業 《専門的知見の充実による社会貢献の推進》

創立 70 周年事業の推進に伴い、各委員会やブロックにおいて様々なセミナーを多数開催したことによって、インダストリアルデザインの普及啓発を強力に推進できた 1 年だった。コロナウィルスへの慣れと状況の改善もあって、対面開催も可能になるなど影響も限定的になってきたことで、開催がし易くなり参加者も増えた。募集方法の多様化も功を奏し、リモート参加者は特に増えている。主な実施セミナーは以下の通り。

（1） 創立 70 周年記念フォーラム「明日をひらくデザイン ～持続可能性をデザインから考える～」

- (2) 創立 70 周年記念フォーラム「デザインが日本を変える～これからの日本のデザイン政策と戦略～」
- (3) 創立 70 周年記念リレーセミナー「新たな“あたりまえ”をつくるデザインのヒミツ」
- (4) 創立 70 周年記念リレーセミナー「実際どんなプロセスでデザインしているか、今からお見せします」
- (5) デザインと漫画の領域を超えて 漫画家かつぴー講演会（東日本ブロック）
- (6) 老舗企業にイノベーションを生んだ、チームとデザイン・貝印（中部ブロック）
- (7) ONE DAY DESIGN ACADEMY（関西ブロック）
- (8) ひろでんを知ってますか？（西日本ブロック）
- (9) デザインで拓く、北陸の心豊かな未来 ～地方から発信する新しい可能性～（北陸ブロック）
- (10) 第 35 期報告会 JIDA インハウス女性デザイナー研究会報告セミナー
- (11) 欧州カーデザイン 2021「トリノ最新デザインおよび教育動向・夏季研修プロジェクト報告会」
- (12) 第 98 回勉強会 「人に優しく温かく！心を癒す効果のある木材の魅力」
- (13) 第 99 回勉強会 「あっ！こんなところにもファスナーが！」
- (14) 第 100 回勉強会 キャスターのアレコレ、「コロコロ動かす」選定ポイント
- (15) 高度デザイン人材になってデザイン経営を実現しよう（インハウス委員会）
- (16) プロダクトデザイナー、CMF デザイナーのリアル（インハウス委員会）
- (17) 手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ（インハウス委員会）
- (18) デザインビジネスセミナー「補助金を上手に活かそう！活用・申請のポイントを学ぶ」
- (19) TASK2022 都内 4 区による中小企業支援事業で、デザイン活用セミナーを実施

### 3、体験活動事業 《次世代人材の育成による国家基盤の充実》

主に若手デザイナーやデザイン系の学生を対象とした体験活動は、明日の日本を背負う人々を対象とした人材育成事業であり、デザインの普及啓発に大きな役割を果たしている。以下以外にも、各地で開催される企業訪問や工場見学会なども含まれる。

#### (1) 国際デザインワークショップ (ISDW)

学生の国際的視野を広げるために、韓国インダストリアルデザイン協会 (KAID)、台湾工業デザイン協会 (CIDA) と共同で国際学生デザインワークショップを毎年開催している。

コロナの影響が続く中で、前年に引き続きオンラインワークショップの形式で開催国である韓国 KAID が中心となり今年の ISDW が開催された。テーマは「Lost & Found After Corona」（コロナ体験で失ったものと得たもの）で開催期間は 8/3（水）～8/12（金）の 10 日間。各国からそれぞれ 20 名、計 60 名のデザイン学生が参加し 10 チームに分かれてテーマに取り組んだ。Zoom や Miro、Facebook などのコミュニケーションツールを活用しながら各チームに配置された Tutor の指導・助言の元に、学生達は活発な論議とそれぞれの専門性を活かしたチームへの貢献により素晴らしい提案をまとめ上げ、プレゼンテーションを行なった。

#### (2) Next EcoDesign ワークショップ

正会員のプロデザイナーが学生を指導しながらデザインワークショップを行ない、「未来をつくるデザイン」として 2022 年も様々なエコデザインに取り組んだ。自然エネルギー・社会システム・インテリアプロダクト・家電・輸送機器等様々なエコデザインのコンセプトをその成果として、「サステナブルデザインの未来シナリオパネル」や「エコデザインの提案モデル」を制作、展示までを行なった。

#### (3) 電車ワークショップ

3 歳から小学生を対象にした電車をつくるワークショップ。2022 年度は 11 月 6 日に八王子駅ビル内にてリアル開催。木材を組み合わせ、色を塗り、電車を制作するワークショップを行なった。27 名の親子が参

加した。

#### **(4) 子どもデザインワークショップ**

毎年恒例となっているミッドタウンでの子どもデザインワークショップ。今回は「木材を組み合わせた電車制作」「ねじを使ったキーホルダー制作」の2つのワークショップを実施した。東京ミッドタウンデザインハブにて8月20日(土)、21日(日)の2日間実施し、親子50名が参加した。

### **4、ミュージアム事業 《デザインを通じた日本文化の高度化》**

#### **(1) デザインミュージアムセレクション Vol.24**

24回目となるデザインミュージアムセレクション Vol.24 を実施。230点の推薦品の中から審査委員による選定審査と、特別審査委員によるゴールドセレクションの審査を行い、合計54点(ゴールドセレクション5点含む)を選定。例年通りAXISギャラリーでの展覧会、選定証授与式、デザインフォーラム、図録発行を実施した。

#### **(2) デザインミュージアム**

創立70周年事業の一環として、11月20日～29日の間、AXISギャラリーにて70周年記念展覧会を開催した。六本木のJIDAデザインミュージアム in AXIS ではセレクション Vol.23 選定品の常設展示を、4ヶ月毎に入れ替えて3回、通年を通して実施した。

#### **(3) パッケージデザインパビリオン**

隔年で開催される東京パック2022内にて、パッケージデザインパビリオンを今年度もJIDAが企画運営を行なった。JIDA会員7組を含む22組が出展、知財の無料相談ブースも開設した。来場者総数は約16万人。2022年10月12日(水)～14日(金)、東京ビッグサイト国際展示場。

#### **(4) 2023春 京都インターナショナルギフトショー**

昨年に引き続き、京都インターナショナルギフトショー「ACTIVE CREATORS STORE」ゾーンにJIDAブースを出展。2023年3月8日(水)～9日(木)、京都市勧業館みやこめっせ1Fにて。

#### **(5) 街中まるごと<デザインミュージアム>池袋**

日本デザイン団体協議会(D8)が2019年から継続している豊島区との共催事業(2022年は「街中まるごと<デザインミュージアム>池袋」)の中で、「インダストリアルデザインの世界・・・音楽のある暮らしとともに」と称する展示会を実施した。11月1日(火)～6日(日)、場所は池袋サンシャインシティ・ソラリウム内にて。

#### **(6) 国際医療機器展 Medtec Japan**

JIDAが参加するのは2回目となる同展示会は、4月20日(水)～22日(金)東京ビッグサイトで行なわれ、JIDAデザインブースへの参加者は14社となった。ブース内にはJIDA70周年と同時に事業を紹介するコーナーも設け、医療関係の来場者にアピールできた。

### **5、調査・研究及びその普及事業 《専門性の深化及び客観化》**

調査・研究事業には、民間では提供できないデザインツールを使い易い形に開発し普及させる事業と、デザイナーや関連産業に關わる人たちに役立つ専門情報を提供する事業、更に社会問題を解決する目的の調査・研究を行う事業と、知的財産に関する調査・研究事業などがある。2022年度は非常に活発な活動ができた。

#### **(1) JIDA STANDARD SAMPLES の頒布**

2022年度の頒布実績は全128冊と昨年度の2倍近い実績となった。内訳は「1」:21冊、「2」:15冊、「3」:7冊、「4A」:23冊、「4B」:18冊、「6」:44冊。新刊「6-木のサンプル帳」発刊に伴っ

て周辺のサンプルを引き上げたものと考えられる。その他サンプルは全 22 冊を頒布。内訳は「アルゴ」: 14 冊、「NCS」: 5 冊、「RAL」: 2 冊、塚田理研: 1 冊。

## (2) KIDS DESIGN TOOLS の頒布

2022 年度の頒布実績は、子どものからだパステータ集: 4 冊、2.5Dキッズパーツ: 1 セット、2Dキッズモデル: 1 セット、子どものからだ図鑑: 4 冊と低調な結果となった。

## (3) 産総研、消防庁との共同研究会

「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとに事故予防に関する共同研究会を、例年通り隔月で 6 回実施した。

## (4) 傷害予防教育のための生活空間 3Dモデルの研究

産業技術総合研究所 人工知能研究センターが重点課題として、安全な環境インタラク션을支援する「保護者向けの傷害予防教育ツール」のソフト開発に取り組んでおり、その基盤フレームとなる集合住宅、戸建て住宅、日本家屋の3タイプの3Dモデルを作成した。

## (5) 生活空間に溶け込んだ身体保持機能の研究

高齢者がバランスを崩した場合に姿勢を保持するための環境づくりとして、産業技術総合研究所の研究施設リビングラボに設置されている家具や壁などに、身体保持機能を持たせた全く新しいコンセプトの生活空間を創出するデザイン研究を実践した。

## (6) 高齢者向け支持機能付きテーブルの研究

高齢者が椅子から立ち上がる時や周辺通過時に、姿勢保持の機能を有するテーブルの在り方を研究し、川崎市が推進する高齢者福祉事業の川崎市福祉製品等開発支援補助金を活用して、社会実装に向けたデザイン研究・開発を行った。

## (7) 日本弁理士会意匠部会との共同研究会

日本弁理士会のメンバーとの共同研究会で、2022 年度はプチセミナー 4 回と共同公開イベントを 2 回開催した。

### <プチセミナー>

- ① 「展示会出展の落とし穴」 「クラウドファンディングの成功事例」 9/9
- ② 「意匠審査における類否判断」 「デザイナーの仕事」 11/11
- ③ 「デザイナーが知っておくべき商標登録のポイント」 「デザインの現場」 1/13
- ④ 「意匠登録申請におけるポイント」 「イベント・展示会の企画・運営・ブランディング」 3/10

### <共同公開イベント>

- ① 「デザインロイヤルティ契約のきほん」 ～販売数に比例した報酬の方法～ 8/5
- ② 「デザイナーと手を取り合う知財活用戦略」 ～デザインロイヤルティ契約のすすめ～ 10/12

## 6、内外関係機関との交流及び協力を行う事業 《社会貢献及びデザイン価値の拡充発展》

コロナ禍の影響で延期となった海外でのセミナーはオンライン開催、デザインフォーラムへの講演者派遣は事前録画での登壇となるなどの新しい方式も定着。日本のデザインやデザイナーに対するリスペクトを背景にした海外デザイン団体や企業からの要請は更なるネットワーク拡大へ繋がっており、日本のデザイナーの海外進出に向けた支援は協会の重要なミッションのひとつであり今後の課題でもある。

### (1) Asia Design Assembly (ADA) 韓国: KAID、台湾: CIDA との国際交流事業

日本(JIDA)、韓国(KAID)、台湾(CIDA)の3カ国デザイン団体で ADA を構成。各代表によるオンライン会議に参画し主要行事である各国デザイン学生ワークショップ (ISDW) の企画をメインテーマにディスカッションを重ねる。前年同様オンライン開催されたイベントの完遂に向けて、前年主催した経験を活かしながら

主催者の KAID をサポートしつつ、3カ国 10名の tutor を含めたオンラインミーティングへも参加。

## **(2) WIDD (World Industrial Design Day) フォーラムイベント (オンライン)**

WDO(World Design Organization)、JDP (日本デザイン振興会) との連携で国際インダストリアルデザイナー(6/29)のオンラインイベントを支援。デザイン・ダイアログの聞き手として豊田自動織機デザイン G から薬師忠幸 GM に参加いただき実施、広報と連携して JIDA 会員への告知も行った。

## **(3) CHINAPLAS2022 デザインフォーラム (オンライン)**

CHINAPLAS は中国で毎年開催されている最大級のプラスチックとゴムの見本市イベント。今年度はオンラインによるバーチャルショーが5月末から開催され、当協会では、デザインフォーラムでの講演のスピーカー選定と後方と連携しスピーチビデオ制作などの支援を行った。

## **(4) WDA/World Design Assembly 2023**

2023年10月に東京で開催予定の WDO 主催の WDA2023 に向けて、イベント全体の実行計画を推進するための企画、運営、広報部会に対して協会からの人的支援を多数展開中。

## **(5) CJIDC (中日工業設計中心) との連携事業**

蘇州市政府の委託を受けた中日工業設計中心からの依頼により JIDA 公益 6 事業の範囲で中国での日本デザインとデザイナーのアピールをはじめとした関係構築の可能性を検討。MOU の締結を済ませ、個別事業は別途契約する形で進行中。

## **(6) その他交流、協力事業**

- ・中部ブロック大学の卒業制作展訪問と表彰
- ・関西ブロック学生デザイン賞
- ・北陸ブロック卒業制作展見学会

# **7、共益事業**

## **(1) DP ホットライン**

主にフリーランスデザイナーを対象にした会員向け知財相談窓口「DP ホットライン」を通年開設し、会員からの知財相談に対応している。2022 年度も意匠登録の申請に関する相談や、知財に関するトラブル等が寄せられ、専門家が真摯に対応した。

## **(2) 会報誌**

毎年一度、外部向け年間活動報告書として「アニュアルレポート」を編集・印刷し、広く一般に発信している。2022 年度も 2021 年度のレポートを 8 月に 800 部印刷、内外の関係各所や全ての会員に配布した。

## **(3) その他**

公式サイトを大幅リニューアルし、委員会やブロックが自身のサイトを常時更新できるように改良した。これにより、広報に都度依頼することなく、スムーズにリアルタイムの情報発信が可能となる。

## II 正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
受取入金	721,000	855,000	△ 134,000
受取入金	721,000	855,000	△ 134,000
受取会費	24,795,000	24,862,000	△ 67,000
正会員受取会費	15,372,000	15,210,000	162,000
賛助会員受取会費	7,400,000	8,300,000	△ 900,000
個人賛助会員受取会費	306,000	252,000	54,000
法人正会員受取会費	1,717,000	1,100,000	617,000
事業収益	41,301,382	21,864,322	19,437,060
書籍頒布収益	5,907,877	3,449,691	2,458,186
検定登録収益・問題使用収益	2,770,500	2,899,600	△ 129,100
展示・セミナー会費収益	10,136,500	8,022,838	2,113,662
受託事業による収益	15,150,955	4,232,896	10,918,059
その他の活動収益	7,095,550	3,259,297	3,836,253
委員会収入	240,000	0	240,000
受取補助金等	4,342,000	4,529,000	△ 187,000
受取地方公共団体補助金	42,000	0	42,000
受取民間助成金	4,300,000	4,529,000	△ 229,000
受取寄付金	1,962,000	3,165,291	△ 1,203,291
受取寄付金	1,962,000	3,165,291	△ 1,203,291
雑収益	261,317	8,567	252,750
受取利息	325	317	8
雑収益	260,992	8,250	252,742
経常収益計	73,382,699	55,284,180	18,098,519
(2) 経常費用			
事業費	69,118,770	49,955,669	19,163,101
期首棚卸高	5,953,733	7,221,304	△ 1,267,571
期末棚卸高	△ 6,931,060	△ 5,953,733	△ 977,327
給料手当	10,267,260	10,184,308	82,952
雑給	3,132,175	2,378,216	753,959
退職金	0	296,888	△ 296,888
法定福利費	1,604,333	1,626,795	△ 22,462
福利厚生費	0	33,567	△ 33,567
旅費交通費	2,353,193	1,166,412	1,186,781
通信運搬費	1,302,221	1,185,684	116,537
会議費	985,481	411,171	574,310
減価償却費	74,769	65,710	9,059
什器・備品購入費	25,854	0	25,854
印刷製本費	4,511,784	2,298,591	2,213,193
出展料・参加費	3,944,820	1,545,500	2,399,320
材料費	9,835,969	3,278,050	6,557,919
水道光熱費	2,099,309	1,975,536	123,773
賃借料	5,313,721	5,717,205	△ 403,484
団体諸会費	583,000	598,000	△ 15,000
諸謝金	10,500,882	5,682,509	4,818,373
租税公課	676,131	741,464	△ 65,333
事務用品費	524,790	415,942	108,848
委託費	9,433,513	7,734,954	1,698,559
懇親会費	758,390	0	758,390
雑費	1,326,582	1,351,596	△ 25,014
委員会振替	240,000	0	240,000
式典運営費	601,920	0	601,920
管理費	5,921,277	4,737,438	1,183,839
給料手当	1,811,869	1,797,231	14,638
雑給	770,019	297,000	473,019
退職金	0	52,392	△ 52,392
法定福利費	283,118	287,082	△ 3,964
福利厚生費	14,338	0	14,338
旅費交通費	290,844	144,163	146,681
通信運搬費	128,791	115,991	12,800
減価償却費	21,089	18,533	2,556
什器・備品購入費	4,924	0	4,924
印刷製本費	187,991	95,775	92,216
水道光熱費	341,748	321,599	20,149
賃借料	937,715	1,008,918	△ 71,203
諸謝金	110,643	129,934	△ 19,291
租税公課	4,319	4,736	△ 417
事務用品費	85,431	67,711	17,720
委託費	192,521	157,856	34,665
雑費	234,102	238,517	△ 4,415
式典運営費	501,815	0	501,815
経常費用計	75,040,047	54,693,107	20,346,940
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,657,348	591,073	△ 2,248,421
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,657,348	591,073	△ 2,248,421
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
収藏品受贈益	17	40	△ 23
経常外収益計	17	40	△ 23
(2) 経常外費用			
未収会費取立不能分	315,000	412,000	△ 97,000
経常外費用計	315,000	412,000	△ 97,000
当期経常外増減額	△ 314,983	△ 411,960	96,977
当期一般正味財産増減額	△ 1,972,331	179,113	△ 2,151,444
一般正味財産期首残高	30,056,277	29,877,164	179,113
一般正味財産期末残高	28,083,946	30,056,277	△ 1,972,331
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	28,083,946	30,056,277	△ 1,972,331